宇部興産中央病院広報紙

tanpopo

たんぽぽ

新年のご挨拶

院長　武藤　正彦

新年明けましておめでとうございます。

2017年は酉年です。わが宇部興産中央病院も大きく飛躍できる年にしたいと願っています。現在建設が進んでいる４階建ての新病棟も今秋にはほぼ外観が出来上がり、その後2018年４月の稼働を目指して内装工事が始まります。完成後の病棟からは美しい瀬戸内海を一望することができるので、きっと患者さまの心と身体を癒してくれるものと期待をしています。

2014年に医療法人化をした当院に相応しいロゴマークを作ることを決め、院内公募を行ったところ、予想を上回る数の応募がありました。その選定のための一次および二次の審査作業も無事に済み、下記のデザインに落ち着きました。

共存・共栄の願いをこめたこのロゴマークに末永いご愛顧を御願い致します。

真の意味での当院の自立化が目に見える形で一歩前進することになります。

これからの高齢化社会に柔軟に対応できるようにとの願いの下に、昨年４月に開設した総合診療科も専門医を増員し機能強化を図ります。幅広い診療範囲を得意とする総合診療医の活躍による地域の皆さまの健康管理になお一層の貢献を果たしてくれることを願っています。

地域医療支援病院としての責務を十二分に遂行できるよう、職員一丸となって努めていきますので、地域の皆さまの当院への一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げる次第です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年
1月
84号

地域連携室のイメージ花「たんぽぽ」

たんぽぽの花ことばは「真心の愛」「明朗な歌声」幸福を知らせる花、綿毛が地域連携の歌声です。自ら風にのり、地域の中に飛んでいき、地域に医療連携の種子を広げていく…そんな思いを込めた広報紙です。

【病院理念・方針】

いつでも誰でも安心してかかれる中央病院
常に使命感を持ち協調して行動する中央病院

一、医の倫理と良心に従い、より良い医療の提供と医療安全に努めます。
一、患者さんの生命の尊厳と権利を尊重し、患者満足度の向上に努めます。
一、地域の中核病院として関係する地域医療・福祉機関との連携に努めます。
一、経営の健全化と職員満足度の向上に努めます。

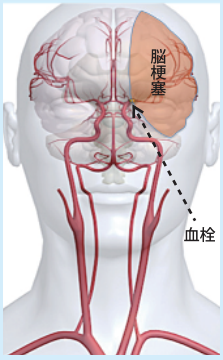
地域医療支援病院
UBE 宇部興産中央病院
地域連携室
宇部市大字西岐波750番地　TEL(0836)51-9421

急性期脳梗塞のお話

脳神経外科　部長　田中　康恵　医師

昨年10月より宇部興産中央病院脳神経外科に入職いたしました、田中 康恵と申します。防府市出身で、平成14年に山口大学医学部を卒業いたしました。県外で主に脳卒中に関する診療と研究に携わってまいりましたが、この度地元に帰り、これまで学んできた事をやっと自分の地元に還元できる機会を得ることとなりました。

脳卒中とは脳血管障害のことを指します。これは出血性脳血管障害（脳内出血とくも膜下出血）、および虚血性脳血管障害（脳梗塞）に大きく分類されます。今回は、急性期脳梗塞に対する治療と今後の課題についてお話します。



脳血管が閉塞すると脳梗塞の変化が起き始めます。

時間が経てば経つほど重い後遺症が残る確率が高くなります。

図１　脳梗塞の発生

１．急性期脳梗塞とは；脳梗塞とは脳に栄養や酸素を送る動脈が閉塞することで起きる病気です（図1）。血栓（血の塊）で動脈が詰まり、血流が止まることで脳の細胞と組織の機能に障害を来し様々な症状が起き始めます。「急性期」とは症状が出てから数時間の間もない時期を言いますが、うまく言葉が話せなくなる、片方の手足がしびれる、力が入りにくくなる、意識がはっきりせず朦朧（もうろう）としているなどの症状がある場合は脳梗塞の可能性があるため、直ちに救急車を呼んで病院に行き診断と治療を受ける事が大切です。**脳梗塞による後遺症をできるだけ軽くするためには、いかに早く治療を開始し閉塞した血管を再開通させるかが最も重要です。**しかし治療が遅れてしまうと血流が途絶えたままの脳の細胞は回復できなくなり、意識障害、麻痺、言語障害などの重い後遺症が残り、寝たきりになってしまう確率が高くなります（図2）。

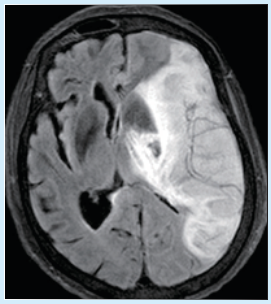


図２　血流再開が間に合わず大きな脳梗塞が起きてしまった場合のMRI FLAIR 画像（白い部分）

２．急性期脳梗塞の治療；**症状が出て4.5時間以内であれば、「アルテプラーゼ静注療法」を行える可能性があります。**これは血栓を溶かすためのお薬（アルテプラーゼ）を静脈注射することで脳の動脈に詰まった血栓を溶かし、脳の血流を再開させる内科治療で、治療の有効性や安全性が確立されています。副作用として、脳や脳以外の体のいろいろなところに出血することがあります。したがって、血液検査で異常がある場合や出血に関係した持病がある場合、手術を受けたばかりの時期や普段内服している薬が効果に影響する場合はこの治療が行えない場合もあります。**症状が出て4.5時間を過ぎてしまった場合やアルテプラーゼ静注療法が行えない場合、あるいは静注療法が効かなかった場合には脳血管内治療による「血栓回収療法」が行われる事があります。**これはカテーテル（医療用の細い管）を脳の詰まった血管（図3）まで進めて、詰まった血の塊を機械的に回収する治療で、血栓をカテーテルから吸引して回収する機器（図4）やステント型（円筒状の金属の網）の血栓回収機器（図5）があります。近年は、これらの血栓回収機器を用いた方法によりアルテプラーゼ静注療法が効かなかった場合でも血流が再開し（図6）、患者さんの後遺症がより少ない結果をもたらしたという報告が増えてきています。しかしこの方法も**症状が現れてから８時間を過ぎると用いることができません。**いずれにしても、**脳梗塞かもしれないと思ったらしばらく様子を見てみようとは思わず、すぐに救急車を呼んで病院に行き、診断と治療を受けることが大切です。**

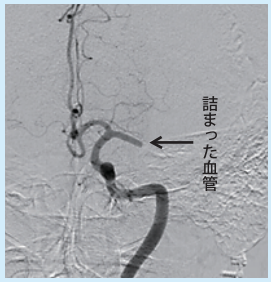


図３　脳血管内治療前

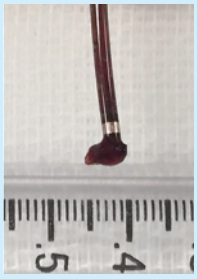


図４
吸引式の血栓回収機器で吸い取れた血栓

図５　ステント型血栓回収機器に捉えられた血栓

図６　脳血管内治療後

心エコー検査

循環器内科　部長　原田　雅彦　医師

心エコー検査は、ほとんどの心疾患における診断や重症度評価や治療効果の判定に役立ち、当院でも毎年2000例以上行われている循環器領域で極めて重要な検査です。この度、GE社製ViVid E95という最先端の心エコー機が当院に導入されましたので、ご紹介します。従来の心エコー機と比べて、画質や操作性が格段に向上したばかりでなく、心臓の機能を自動的に計算するAuto EF、肉眼で判定するのが困難な軽微な心臓の動きの異常を検出するAFI、さらに心臓の内部構造を立体的に描出できる３次元表示などの新たな機能が搭載されました。これより、今まで以上に診断精度が向上するばかりでなく、一人あたりの検査時間も短縮できますので、心疾患が疑われる患者さんの診療に役立つ情報を、一人でも多くかつ迅速に提供できると考えております。

２０１８年３月末

新しく希望の棟として中央病院に加わります

新棟建設室長　山﨑　　明

新棟計画コンセプトは、宇部市の東地区の拠点二次救急病院として、地域の信頼に応える救命・救急医療の機能性を備え、また、福田進太郎建設委長（副院長）の「スタッフの就労意欲が湧く新病棟建設」をスローガンに２月18日に起工式を無事行ないました。

新病棟のレイアウトは、１階に救急センター・内視鏡センター・画像室を配置し、新病棟の顔となる救急入口は、救急車が一度に３台横付けできる人工台地のロータリーが設けられております。２階は５室の手術室ゾーン、３階は高度治療室12床を配備した脳外科病棟となっており、まさしく地域の高齢化に伴う救命救急医療へ応えています。一方では、医療スタッフへのアメニティにも充分配慮されたレイアウトになっています。

新病棟の外装は、１・２階は落ち着きと安定感を持たせ、３・４階を明るく、清潔感に溢れた色調は地域との融合と協調性を意味してます。また、外観的には南側は三角に突出た斬新なスタイルとなっています。肝心の耐震性は、熊本地震のような地震でも崩壊・倒壊はない構造体となっています。台風・省エネ・塩害対策も各所にふんだんに盛り込まれ、外壁は強度・断熱性にも優れた素材、窓ガラスも２重ガラス、塩害対応機器導入等、室内環境・省エネにも充分配慮しています。

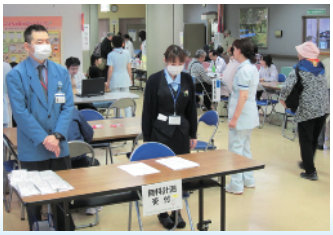
工事は2017年３月末に本体工事完工、同9月末には連絡廊下を完工、外来棟との連結も完備したうえで、2018年４月本稼働を予定、中央病院の新しい位置づけでの希望の病棟として加わります。

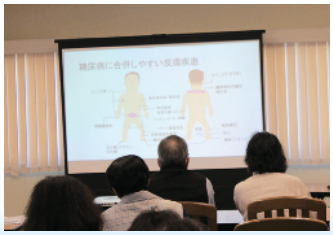
糖尿病週間行事

糖尿病週間行事を昨年11月16日に行いました。

糖尿病に関する無料検診や健康相談・展示、また皮膚科医師による講演会をおこない参加頂いた方から好評を頂きました。

午後からは、糖尿病食を体験する目的で試食会をおこない、試食された方から、「おいしい」と大好評をいただきました。糖尿病患者さんにとっての食は大切な治療の一つであり、栄養バランスを考えしっかりと食べることが大切です。食事会の後は、理学療法士と運動療法の実践をおこない、楽しく継続できる運動を参加者全員でおこないました。





春を迎える準備始めました

宇部興産中央病院看護部では、2016年11月26日（土）に2017年度看護師採用予定者への国家試験対策説明会ならびに親睦会を開催しました。

参集した採用予定者は、34名中31名でした。「国家試験攻略法、クリスマスや正月を制するものは国家試験を制す！」と合格に向けて学習方法と心構えを確認し合いました。午前中は、12月23日から1月3日 まで宇部興産中央病院において国家試験のための学習計画を立案して、午後からは、阿知須「ペイザン」に移動し、イタリアンフルコースをいただきながら歓談しました。

おしゃれな雰囲気のお店の中で、将来の夢や希望を語りながらの仲間創りは楽しそうでした。参加した看護部長や師長から「しっかりとした教育体制を準備して皆さんを支えます。頑張りすぎないで、不安なことがあれば、私の懐に飛び込んできてね」などメッセージが送られました。働き始めてからのイメージづくりと仲間意識をもつことができたと思います。

国家試験はゴールではなく登竜門、まずは合格しなければ始まりません。温かい声援を受けた未来の宇部興産中央病院ナースさん！体調管理（ビタミンCをしっかり摂取）に努め、一緒に頑張りましょう。努力は必ず報われます！

管理栄養士のつぶやき Vol.10

管理栄養士
原田明子

～フレイル～

「フレイル」とは加齢に伴い、生理的機能低下やホメオスタシス（体を一定に保つ働き）が低下し、種々のストレスに対して身体機能障害を起こしやすく、要介護状態となりやすい状態のことをいいます。

日本の高齢者（70歳以上）でフレイルに該当する方は約10%ともいわれています。しかし、適切な介入をすることで健常な状態へ戻ることが可能であり、フレイルの予防・改善として「運動」と「栄養」を併用することが大切です。

■フレイル予防と改善の食事ポイント！

① １日**3食**きちんと食事を食べよう。
⇒食生活リズムを整える。

② 毎食**たんぱく質**を摂取するように心がけよう。
⇒筋肉量を減少させないように
しましょう。

③ **ビタミンD**を多く含む食品を摂取しよう。
⇒骨や筋肉を強くします。
魚に多く含まれ、鮭やサンマ、
サバなどがおススメです。

日本フィルハーモニー交響楽団 弦楽四重奏団による ふれあいコンサート たんぽぽコンサート を開催しました。

今年も昨年同様に２部構成にて日本フィルハーモニー交響楽団　弦楽四重奏によるコンサートを10月15日（土）開催しました。１部は入院患者さんを対象にふれあいコンサートを開催、100名を超える入院患者さんが集まり弦楽四重奏の音色にとても心が癒されました。最後は「ふるさと」を弦楽四重奏の演奏に合わせ一緒に歌い楽しいひと時を過ごしました。

２部のたんぽぽコンサートでは140名を超える地域の方々が集まり、楽団員の楽しいトークや曲名当てクイズを行いました。曲名をあてた方にはレストラン「コスモ」のお食事券がプレゼントされるなど、和気あいあいとした雰囲気で楽しい時間を過ごしました。

山口県下の救急救命士　130名が集う 救命救命士スキルアップセミナー を開催

「救急現場の最前線　一緒に学ぼう！」をテーマに、山口県下の救急救命士のためのスキルアップセミナーを昨年10月宇部興産中央病院地域連携室と地域メディカル協議会（宇部・山陽小野田消防局）とで共同開催しました。

このセミナーはで今回で第９回目となり、今回も山口県下消防本部の救急救命士130名が参加、当院の講堂が一杯になりました。当院の副院長で循環器科の森谷浩四郎医師が「病院前救護における12誘導心電図」の教育講演を行い、続いて萩市消防本部の救急救命士から「多数傷病者が発生した交通事故症例」と題して症例発表やパネルディスカッションを行いました。今では、この救急救命士に対するセミナーは、山口県下では最大の参加規模になりました。今年は10回目の記念開催ですのでより一層取り組みます。

発行：宇部興産中央病院 地域連携室 0836－51－9421

印刷：
重度障害者多数雇用事業所
㈲リベルタス興産
文化庁登録第17298号の1